

もくじ

■ 世界史探究（世探 701）	
1 学習の到達目標	2
2 科目の特色	2
3 学習の計画	3
4 評価の方法	26

世界史探究	単位数	3 単位 (105 時間)
	学科・学年・学級	〇〇科 第〇学年 〇組
使用教科書、副教材等	東京書籍「世界史探究」(世探 701), 「要点マスター世界史探究 整理と演習」(以上東京書籍)	

1 学習の到達目標

- ① 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。
- ② 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- ③ 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

2 科目の特色

「世界史探究」は、地理歴史科の中に設けられた標準単位数 3 単位の選択科目である。今回の学習指導要領の改訂で設置された必履修科目である「歴史総合」の学習によって身につけた資質・能力を基に、世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解するとともに、事象の意味や意義、特色などを考察し、よりよい社会の実現を視野に、歴史的経緯を踏まえて、地球世界の課題を探究する科目である。

「世界史探究」については、「歴史総合」の学習を踏まえ、従前の「世界史A」、「世界史B」のねらいを発展的に継承しつつ、諸地域の歴史的特質の形成、諸地域の交流・再編、諸地域の結合・変容という構成に沿って、世界の歴史の大きな枠組みと展開について理解を深め、地球世界の課題とその展望を探究する力を養うことをねらいとしている。

「世界史探究」の学習指導要領が「A 世界史へのまなざし」、「B 諸地域の歴史的特質の形成」、「C 諸地域の交流・再編」、「D 諸地域の結合・変容」、「E 地球世界の課題」の五つの大項目によって構成されているのを受け、本書も「序章 世界史のまなざし」「第1編 諸地域の歴史的特質」「第2編 諸地域の交流と再編」「第3編 一体化していく世界」「第4編 グローバル化と地球的課題」という構成となっている。また、「世界史探究」は必ず「歴史総合」の履修のあとで学習すること、また、「世界史探究」のなかでも必ずA、B、C、D、Eの順序で取り扱うということが指導要領上に明記されていることにも留意したい。

第1編から第3編のはじめには、その編で扱う時代と地域を俯瞰するための観点を基にした諸資料から問いを表現し、考察するためのページを設けている。また、各単元のはじめに必ず「問い」を設定し、生徒が歴史的な見方・考え方にもとづいて「課題」や「問い」を中心に学習を構成できるようになっている。「課題」や「問い」は①「事象の推移や展開を考察し理解を促すための課題(問い)」と②「事象を比較したり相互に関連づけたりして考察し追究を促すための課題(問い)」の段階的な問いを設定し、教科書の随所に「深める」の問いや「資料で深める歴史の世界」のページを設けている。これらを計画的に活用することで、生徒が主体的に学習に取り組み、深い学びに到達することができる。

また、最後の第4編は、「世界史探究」の学習の総まとめとして、生徒がこれまでに習得した知識や技能を活用して主体的に探究し、その成果を発表したり討論したりする活動を通して、歴史的経緯を踏まえて地球世界の課題を理解できるよう、三つのテーマを設定している。

これらの学習を通して、社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することをめざすのが「世界史探究」という科目である。

3 学習の計画

学習の計画

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
4月	序章——世界史へのまなざし		○世界史探究の導入としての位置づけを踏まえ、生徒が現在と異なる過去や現在につながる過去に触れ、世界史学習の意味や意義に気づくようにする。	○諸事象の来歴や変化に着目して、主題を設定し、身の回りの諸事象と世界の歴史との関連性を多面的・多角的に考察する。 ○諸事象を捉えるための時間の尺度や、諸事象の空間的な広がりに着目し、主題を設定し、地球の歴史における人類の歴史の位置と人類の特性を多面的・多角的に考察する。
		1 茶と世界史	○身の回りの諸事象と世界の歴史との関連性を理解する。	○「茶」の来歴に着目して、主題を設定し、身の回りの諸事象と世界の歴史との関連性について、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察する。
		2 地球と人類の誕生	○現生人類はどのようにして地球全体に拡散していったのかについて理解する。	○現生人類はどのようにして地球全体に拡散していったのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察する。
4月	第1編 諸地域の歴史的特質	諸地域の歴史的特質への問い	○王権と身分・階級、生活と生業、宗教、文化・思想などに関する諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動を通して、諸地域の歴史的特質を読み解く観点について考察し、問いを表現する。	○王権と身分・階級、生活と生業、宗教、文化・思想などに関する諸資料を活用し、問いを設定し、情報を読み取ったりまとめたりする。
4月	第1章 古代文明の出現		○各地域の古代文明について、その共通点や相違点、それらが自然環境とどのように関係しているかなどについて理解する。	

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		1 農業と気候	○農耕と牧畜のはじまりにより人類の生活様式が大きく変わったことや、地球上のさまざまな自然環境に応じて文明が誕生したことについて理解する。	○農耕と牧畜のはじまりによって人類の生活様式が大きく変わったことについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。
		2 古代オリエントとエーゲ海地域	○メソポタミア文明、エジプト文明、エーゲ文明がそれぞれの自然環境とどのように関係しておこったのか、それらの文明がのちの社会にどのような影響を与えたのかについて理解する。	○メソポタミア文明、エジプト文明、エーゲ文明がのちの社会にどのような影響を与えたのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。
		3 南アジアの古代文明	○インダス文明が南アジアの自然環境とどのように関係しておこったのか、インダス文明やアーリヤ人の来住がのちの社会にどのような影響を与えたのかについて理解する。	○インダス文明やインドへのアーリヤ人の来住がのちの社会にどのような影響を与えたのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。
		4 東アジアにめばえた文明	○黄河文明が東アジアの自然環境とどのように関係しておこったのか、黄河文明や殷・周がのちの社会にどのような影響を与えたのかについて理解する。	○黄河文明や、殷や周の王朝がのちの社会にどのような影響を与えたのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○古代文明の歴史的特質について、自らの学習を振り返り、学びを深める。
4月・5月	第2章 西アジアと地中海周辺		○西アジアと地中海周辺の国家がどのように影響を及ぼしあい、どのような共通点をもっているかなどについて理解する。 ○この世界で成立した宗教が現在の世界の宗教分布とどのように関係しているかについて理解する。	

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		1 古代オリエントの統一	○アッシリアとアケメネス朝ペルシアの統治の共通点と相違点を理解する。	○アッシリア帝国とアケメネス朝ペルシアがどのような共通点と相違点をもっているかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。
		2 古代ギリシアとヘレニズム世界	○アテネの民主政と現代の民主政にはどのようなちがいがあのかについて理解する。	○アテネの民主政と現代の民主政にはどのようなちがいがあのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。
		3 ローマ帝国と地中海世界	○ローマがなぜ共和政から帝政に移行したのかについて理解する。	○ローマがなぜ共和政から帝政に移行したのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。
		4 古代末期の社会と地中海世界の解体	○ローマ帝国の政治、社会、宗教の変化やキリスト教の広まりが、その後のヨーロッパや西アジアにどのような影響を与えたのかについて理解する。	○ローマ帝国の政治、社会、宗教の変化やキリスト教の広まりが、その後のヨーロッパや西アジアにどのような影響を与えたのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○古代ギリシアとローマ世界の共通点と相違点について、自らの学習を振り返り、学びを深める。
		5 地中海世界とアジア	○ローマ帝国と西アジアが、南アジアや東アジアとどのようにつながっていたのかについて理解する。	○ローマ帝国と西アジアが、南アジアや東アジアとどのようにつながっていたのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。
		● 2世紀の世界	○東西に成立した大帝国にはどのような共通点と相違点があるか、またそれらはどのような歴史的背景にもとづいているのかについて理解する。	○諸資料を多面的・多角的に考察し、2世紀の世界を概観する。

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		6 イスラーム世界の成立	○イスラームとはどのような特徴をもった宗教なのか、どのように広まったのかについて、ほかの宗教と比較するなどして理解する。	○イスラームとはどのような特徴をもった宗教なのか、どのように広まったのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。
		7 中世初期の東西ヨーロッパ	○東西ヨーロッパはそれぞれどのような変容をとげたのか、どのように影響を及ぼしあい、どのような相違点と共通点をもっていたのかについて、理解する。	○東西ヨーロッパはそれぞれどのような変容をとげたのか、どのように影響を及ぼしあい、どのような相違点と共通点をもっていたのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○キリスト教とイスラームを基盤とした国家の特徴について、自らの学習を振り返り、学びを深める。
5月	第3章 南アジア		○南アジア地域を特徴づける「多様ななかの統一」とはどのようなことなのかなどについて理解する。	
		1 南アジアにおける国家形成	○南アジアの諸宗教の特徴について理解する。	○南アジアの諸宗教はどのような特徴をもっているかなどについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。
		2 インド世界の形成	○南アジアの国家や社会の特徴について理解する。	○南アジアの国家や社会はどのような特徴をもっているかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○南アジアの歴史的特質について、自らの学習を振り返り、学びを深める。
5月	第4章 東南アジア		○東南アジア地域における国家形成が交易や思想・文化とどのように関係しているのかなどについて理解する。	

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		1 海の道の形成と 東南アジア	○東南アジア地域において、国家がどのように形成されたのかについて理解する。	○東南アジア地域において、国家がどのように形成されたのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。
		2 東南アジア諸国 家の再編成	○島嶼部と大陸部の国家や文化がそれぞれどのような特徴をもっているのかについて理解する。	○島嶼部と大陸部の国家や文化がそれぞれどのような特徴をもっているのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○東南アジアの歴史的特質について、自らの学習を振り返り、学びを深める。
5月・6月	第5章 東アジアと 中央ユーラシア		○東アジアと中央ユーラシアの古代国家はどのようにして生まれたのか、また古代国家の誕生と発展が社会と文化に与えた影響や、それによって生みだされた地域の特色について理解する。	
		1 古代帝国の誕生	○秦漢帝国や匈奴帝国はどのようにして生まれ、どのような性格をもっていたのかについて理解する。	○秦漢帝国や匈奴帝国はどのようにして生まれ、どのような性格をもっていたのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。
		■資料で深める歴史の世界 古代における貨幣は、どのような意味をもっていたのだろうか	○古代中国の青銅貨幣と古代ギリシア・ローマの貨幣を比較し、それぞれの特徴について理解する。	○諸資料を多面的・多角的に考察し、設定された課題を追究する。
		2 中国の分裂と多様化	○中国と周辺地域の交流はどのようにして広がったのかについて理解する。	○中国と周辺地域の交流はどのようにして広がったのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		3 隋唐帝国と東アジア	○隋唐帝国はどのようにして諸地域を統合したのか、また、日本や東アジアの国々は隋唐の文化をどのように受容したのかについて理解する。	○隋唐帝国はどのようにして諸地域を統合したのか、また、日本や東アジアの国々は隋唐の文化をどのように受容したのかについて諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○東アジアの歴史的特質について自らの学習を振り返り、学びを深める。
		4 草原地帯のトルコ化とイスラーム化	○トルコ系の民族がユーラシア大陸の広範囲に広がっていく過程について理解する。	○トルコ系の民族がユーラシア大陸の広範囲に広がっていく過程について、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○騎馬遊牧民の歴史的特質について自らの学習を振り返り、学びを深める。
		● 8世紀の世界	○8世紀は、ユーラシアの諸地域においてどのような面で転換期であったのか、また諸地域の転換はどのように関連していたのかについて理解する。	○諸資料を多面的・多角的に考察し、8世紀の世界を概観する。
6月	第6章 アフリカ、オセアニア、古アメリカ		○ユーラシア大陸以外の地域に成立した文明の特徴について、自然環境との関わりに注目しながら理解する。	
		1 アフリカ	○アフリカ大陸に発達した文明の地域ごとの特徴を理解する。	○アフリカ大陸にはどのような文明が発達したのかを、地域ごとの特徴に注目して諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。
		2 オセアニア	○人類が広大な太平洋に広がっていく過程を理解する。	○人類が広大な太平洋に広がっていく過程について、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		3 古アメリカ	○南北アメリカ大陸の文明の独自性について理解する。	○南北アメリカの文明にはどのような独自性があるかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○アフリカ、オセアニア、古アメリカの歴史的特質について自らの学習を振り返り、学びを深める。
6月	第2編 諸地域の交流と再編	諸地域の交流・再編への問い	○広がる世界像、宗教や科学・技術および文化・思想の伝播、交易の拡大、都市の発達、国家体制の変化などに関する諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動を通して、諸地域の交流・再編を読み解く観点について考察し、問いを表現する。	○広がる世界像、宗教や科学・技術および文化・思想の伝播、交易の拡大、都市の発達、国家体制の変化などに関する諸資料を活用し、問いを設定し、情報を読み取ったりまとめたりする。
6月	第7章 イスラーム世界の拡大と繁栄		○アジア・アフリカの広大な地域が、イスラーム文明圏としてまとまった理由などについて理解する。	
		1 イスラーム世界の発展	○カリフと地方政権の関係に注目して、イスラーム世界が複数の国家に分裂していく過程を理解する。	○カリフと地方政権の関係に注目して、イスラーム世界が複数の国家に分裂していく過程を多面的・多角的に考察し、表現する。
		2 イスラーム文明	○「商業」と「学問」をキーワードに、イスラーム文明の特徴について理解する。	○「商業」と「学問」をキーワードに、イスラーム文明の特徴について、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○イスラーム世界の拡大と繁栄についての自らの学習を振り返り、学びを深める。

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
6 月 ・ 7 月	第8章 中世ヨーロッパ		○9世紀から15世紀にかけて、ヨーロッパ世界ではどのような政治、経済、社会、文化の変動がおこったのか、また、それらの変動の結果は後世のヨーロッパにどのように継承されていったのかなどについて理解する。	
		1 中世ヨーロッパ社会の展開	○西ヨーロッパの封建社会はどのような背景で成立し、東ヨーロッパの民族・国家・宗教はどのように結びついたのかについて理解する。	○西ヨーロッパの封建社会はどのような背景で成立し、東ヨーロッパの民族・国家・宗教はどのように結びついたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		2 中世西ヨーロッパ社会の成熟	○11世紀以降、西ヨーロッパの農業、商業、都市はどのように変容したのかについて理解する。	○11世紀以降、西ヨーロッパの農業、商業、都市はどのように変容したのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		3 中世西ヨーロッパの文化	○中世西ヨーロッパの文化は他地域の文化やキリスト教からどのような影響を受けたのかについて理解する。	○中世西ヨーロッパの文化は他地域の文化やキリスト教からどのような影響を受けたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○中世ヨーロッパ社会の展開と成熟についての自らの学習を振り返り、学びを深める。
		4 中世ヨーロッパ社会の再編	○中世後期の西ヨーロッパでは、社会的・政治的にどのような変動がおこったのかについて理解する。	○中世後期の西ヨーロッパでは、社会的・政治的にどのような変動がおこったのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		5 ルネサンス	○ルネサンスはどのような社会的背景をもち、どのような影響を後世に与えたのかについて理解する。	○ルネサンスはどのような社会的背景をもち、どのような影響を後世に与えたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○中世後期のヨーロッパ社会の変動とルネサンスについての自らの学習を振り返り、学びを深める。
		■資料で深める歴史の世界 レコンキスタ完成でスペイン社会はどのようにかわったのだろうか	○二つの文字資料を読み取り、レコンキスタ完成後のスペイン社会の変化について理解する。	○諸資料を多面的・多角的に考察し、設定された課題を追究する。
7月	第9章 中華世界の変容とモンゴル帝国		○歴史上かつてない規模の世界帝国であるモンゴル帝国はどのようにして生まれ、どのように世界を結びつけたのかなどについて理解する。	
		1 唐の崩壊後の東アジア	○10世紀の東アジア諸国の大変動はどのようにして起こったのかについて理解する。	○10世紀の東アジア諸国の大変動はどのようにして起こったのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		2 宋代の新展開	○唐宋変革とよばれる中国社会の大変革はどのようにして起こったのかについて理解する。	○唐宋変革とよばれる中国社会の大変革はどのようにして起こったのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		3 モンゴル帝国	○モンゴル帝国はどのようにして大帝国へと発展したのかについて理解する。	○モンゴル帝国はどのようにして大帝国へと発展したのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		4 元の成立	○モンゴルの支配は、中国や朝鮮、日本の社会や文化にどのような変化をもたらしたのかについて理解する。	○モンゴルの支配は、中国や朝鮮、日本の社会や文化にどのような変化をもたらしたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○中華世界の変容とモンゴル帝国についての自らの学習を振り返り、学びを深める。
9月	第10章 インド洋海域世界の発展と東南アジア		○インドと東南アジアにおけるイスラームの広がりが一様でなかった要因などについて理解する。	
		1 イスラームのインドとインド洋海域への浸透	○イスラームはインド社会にどのように広がり、どのような影響を与えたのかについて理解する。	○イスラームはインド社会にどのように広がり、どのような影響を与えたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		2 海と陸の結合——東南アジア世界の発展	○東南アジアにおいて国家が発展する過程が、島嶼部と大陸部で異なる要因について理解する。	○東南アジアにおいて国家が発展する過程が、島嶼部と大陸部で異なる要因について、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○インド洋海域世界の発展と東南アジアについての自らの学習を振り返り、学びを深める。
9月	第11章 大交易時代と世界の一体化		○大交易時代に、なぜ世界の各地で社会がほぼ同時に大きく変化したのか、また、世界の諸地域間の関係は、前後の時代と比べてどのように特徴づけられるのかなどについて理解する。	
		1 アジア交易圏の再編と活況	○アジアの交易世界は、なぜマラッカを中心に再編されることになったのかについて理解する。	○アジアの交易圏は、なぜマラッカを中心に再編されることになったのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		2 ポルトガルのアジア進出	○ポルトガルがアジアに進出した理由と、そのことがアジアの交易世界にどのような影響を与えたのかについて理解する。	○ポルトガルがアジアに進出した理由と、そのことがアジアの交易世界にどのような影響を与えたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		3 明と日本・朝鮮の動向	○明の国内重視の国家体制と活発な交易がいかに両立したのかについて理解する。	○明の国内重視の国家体制と活発な交易が、いかに両立したのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○大交易時代のアジア社会についての自らの学習を振り返り、学びを深める。
		4 一体化に向かう世界	○スペインがアメリカやアジアに進出した理由と、そのことが世界の交易のあり方をどのようにかえたのかについて理解する。	○スペインがアメリカやアジアに進出した理由と、そのことが世界の交易のあり方をどのようにかえたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		5 大交易時代の世界	○大交易時代に、なぜオランダが最も有力な交易勢力の一つになったのかについて理解する。	○大交易時代に、なぜオランダが最も有力な交易勢力の一つになったのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○大交易時代のヨーロッパ社会と世界の一体化についての自らの学習を振り返り、学びを深める。
9月	第12章 ユーラシア諸帝国の繁栄		○16世紀から18世紀にかけて、アジア諸地域に成立した諸帝国が比較的安定した社会を維持できたのはなぜか、また経済的繁栄はどのようにもたらされたのかなどについて理解する。	
		1 中央アジアと西アジアの繁栄	○ティムール朝、サファヴィー朝、オスマン帝国の相違点と共通点について理解する。	○ティムール朝、サファヴィー朝、オスマン帝国の相違点と共通点について、多面的・多角的に考察し、表現する。

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		2 インドの大国 ——ムガル帝国	○ムガル帝国の繁栄は、世界の諸地域の動きとどのように関連していたのかについて理解する。	○ムガル帝国の繁栄は、世界の諸地域の動きとどのように関連していたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		3 清と東アジア	○清はなぜ多様な文化や宗教を有する人々を、長期にわたり統治することができたのかについて理解する。	○清はなぜ多様な文化や宗教を有する人々を、長期にわたり統治することができたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○16世紀から18世紀にかけてのアジアの諸帝国についての自らの学習を振り返り、学びを深める。
		●17世紀の世界	○大交易時代を終わらせた世界の変化とはどのようなものだったのかを理解する。	○諸資料を多面的・多角的に考察し、17世紀の世界を概観する。
10月	第13章 主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大		○16世紀から17世紀にかけてヨーロッパにあらわれた新しい国家には、どのような特徴があったのか、また、その形成にはどのような要因が働いていたのかについて理解する。	
		1 主権国家群の形成と宗教改革	○近世の主権国家はどのような特徴をもっているのか、また国家の形成と宗教にはどのようなかわりがあったのかについて理解する。	○近世の主権国家はどのような特徴をもっているのか、また国家の形成と宗教にはどのようなかわりがあったのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		■資料で深める歴史の世界 宗教改革はどのように人々に受けとめられたのだろうか	○二つの木版画を読み取り、ルターや宗教改革に対する人々の受けとめかたを理解する。	○諸資料を多面的・多角的に考察し、設定された課題を追究する。
		2 オランダの繁栄と英仏の国家形成	○オランダの繁栄と英仏の国家建設の関係、三十年戦争がヨーロッパとドイツに与えた影響について理解する。	○オランダの繁栄と英仏の国家建設の関係、三十年戦争がヨーロッパとドイツに与えた影響について、多面的・多角的に考察し、表現する。

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
				○主権国家体制の形成についての自らの学習を振り返り、学びを深める。
		3 商業覇権と植民地建設	○ヨーロッパ諸国の貿易と植民地建設は、ヨーロッパ、アフリカ、アメリカ大陸にどのような影響を与えたのかについて理解する。	○ヨーロッパ諸国の貿易と植民地建設は、ヨーロッパ、アフリカ、アメリカ大陸にどのような影響を与えたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		4 啓蒙専制国家の発展	○英仏に追いつこうとした新興国ではどのような改革が行われたのかについて理解する。	○英仏に追いつこうとした新興国ではどのような改革が行われたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		5 近世ヨーロッパの社会と文化	○自然科学、哲学、芸術などの分野でどのような新しい思想が生まれたのかについて理解する。	○自然科学、哲学、芸術などの分野でどのような新しい思想が生まれたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○地球規模での交易の拡大についての自らの学習を振り返り、学びを深める。
10月	第3編 一体化していく世界	一体化していく世界への問い	○人々の国際的な移動、自由貿易の広がり、マスメディアの発達、国際規範の変容、科学・技術の発達、文化・思想の展開などに関する諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動を通して、諸地域の結合・変容を読み解く観点について考察し、問いを表現する。	○人々の国際的な移動、自由貿易の広がり、マスメディアの発達、国際規範の変容、科学・技術の発達、文化・思想の展開などに関する諸資料を活用し、問いを設定し、情報を読み取ったりまとめたりする。

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
10 月 ・ 11 月	第14章 国民国家と近代社会の形成		○18世紀半ばから19世紀半ばにかけて、欧米で産業革命や、国民が政治の主体となる国家を建設しようとする動きが広がったのはなぜか、また、このような変革は、現代までどのような影響を与えているのかについて理解する。	
		1 産業革命と工業化	○イギリスで産業革命がはじまった原因について理解する。	○イギリスで産業革命がはじまった原因について、多面的・多角的に考察し、表現する。
		2 アメリカ合衆国とラテンアメリカ諸国の独立	○北アメリカの政治変革によって、どのような権利が獲得され、権利が認められなかったのはどのような人々だったのかについて理解する。	○北アメリカの政治変革によって、どのような権利が獲得され、権利が認められなかったのはどのような人々だったのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		3 フランス革命とウィーン体制	○フランス革命の展開と他国への影響について理解する。	○フランス革命の展開と他国への影響について、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○産業革命と環大西洋革命についての自らの学習を振り返り、学びを深める。
		4 自由主義の台頭と新しい革命の波	○1848年にヨーロッパ諸国でおこった出来事の背景と、それによって明らかになった課題はどのようなものだったのかについて理解する。	○1848年にヨーロッパ諸国でおこった出来事の背景と、それによって明らかになった課題はどのようなものだったのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		5 19世紀後半のヨーロッパ諸国	○ヨーロッパ諸国における国民意識の高まりと覇権競争がどのような結果をもたらしたのかについて理解する。	○ヨーロッパ諸国における国民意識の高まりと覇権競争が、どのような結果をもたらしたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		6 南北アメリカの発展	○南北戦争前後の時代のアメリカ各国の社会はどのような課題をかかえていたのかについて理解する。	○南北戦争前後の時代のアメリカ各国の社会は、どのような課題をかかえていたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○欧米での近代社会の形成についての自らの学習を振り返り、学びを深める。
11月	第15章 世界市場の形成とアジア諸国の変容		○産業革命で先行したイギリスが19世紀半ばに自由貿易体制を推進したのに対し、後発のヨーロッパ諸国はどのように対応したのか、また、ヨーロッパ発の工業化の波はアジア諸国に何をもたらしたのかについて理解する。	
		1 産業資本主義の世界への波及と欧米社会	○「世界の工場」とよばれたイギリスの急速な工業化が、世界の結びつき方をどのようにかえたのかについて理解する。	○「世界の工場」とよばれたイギリスの急速な工業化が、世界の結びつき方をどのようにかえたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		2 西アジアの危機と改革のはじまり	○西アジア・北アフリカにおいて、ヨーロッパ諸国との関係の変化はどのような影響をもたらしたのかについて理解する。	○西アジア・北アフリカにおいて、ヨーロッパ諸国との関係の変化はどのような影響をもたらしたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		3 南アジア・東南アジアの植民地化	○南アジアと東南アジアの各地で植民地支配が拡大した理由と、そのことが各地の社会にどのような影響を及ぼしたのかについて理解する。	○南アジアと東南アジアの各地で植民地支配が拡大した理由と、そのことが各地の社会にどのような影響を及ぼしたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		4 清における開港の限界と二つのアヘン戦争	○なぜイギリスは清と争ったのか、また、アヘン戦争でのイギリスの勝利は何を意味したのかについて理解する。	○なぜイギリスは清と争ったのか、また、アヘン戦争でのイギリスの勝利は何を意味したのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○世界市場の形成とアジア諸国の変容についての自らの学習を振り返り、学びを深める。
11月	第16章 アジア・アフリカ諸国の統治再編と世界分割の進行		○アジア諸国が自国の危機をどのように認識し、欧米列強と対峙しながらいかに改革をすすめたのか、また、欧米列強はなぜアジアやアフリカなどに進出しようとしたのかについて理解する。	
		1 列強の覇権争い	○なぜ19世紀後半にヨーロッパ列強がアフリカ内陸部を分割して支配するようになったのかについて理解する。	○なぜ19世紀後半にヨーロッパ列強がアフリカ内陸部を分割して支配するようになったのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		2 西アジア・中央アジアの変革	○列強に対して軍事的・経済的に劣勢に立たされた西アジアの諸国で生じた変革とその背景について理解する。	○列強に対して軍事的・経済的に劣勢に立たされた西アジアの諸国で生じた変革とその背景について、多面的・多角的に考察し、表現する。
		3 南アジア・東南アジアの民族運動	○南アジアと東南アジアの民族運動のそれぞれの特徴について理解する。	○南アジアと東南アジアの民族運動のそれぞれの特徴について、多面的・多角的に考察し、表現する。
		4 清の体制転換と近代国家建設の模索	○経済成長の鈍化や外国の侵略などに、清がどのように対応したのかについて理解する。	○経済成長の鈍化や外国の侵略などに、清がどのように対応したのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○アジア・アフリカ諸国の統治再編と世界分割の進行についての自らの学習を振り返り、学びを深める。

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		●19世紀後半の世界	○19世紀後半に人の移動が急速にすすんだのはなぜか、また、移民は移動先の社会にどのような変化をもたらしたのかを理解する。	○諸資料を多面的・多角的に考察し、19世紀後半の世界を概観する。
12月	第17章 第一次世界大戦の展開と諸地域の変容		○第一次世界大戦は、なぜ「世界大戦」とよばれ、それまでの戦争とどのような点において異なるのか、そして、それぞれの地域において戦争の経験はどのような意味をもったのかなどについて理解する。	
		1 第一次世界大戦	○開戦時点で短期戦が予想された大戦は、なぜ、どのように長期化したのかについて理解する。	○開戦時点で短期戦が予想された大戦は、なぜ、どのように長期化したのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		2 ヴェルサイユ体制と国際秩序の再編	○大戦前と大戦後を比べて、国際秩序のあり方はどのようにかわったのか、また、それはなぜなのかについて理解する。	○大戦前と大戦後を比べて、国際秩序のあり方はどのようにかわったのか、また、それはなぜなのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		3 大戦後のアメリカ合衆国とヨーロッパ	○戦間期アメリカに出現した大衆社会とはどのようなものであり、それはほかの諸国や政治のあり方にどのような影響を与えたのかについて理解する。	○戦間期アメリカに出現した大衆社会とはどのようなものであり、それはほかの諸国や政治のあり方にどのような影響を与えたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		4 アジア・アフリカでの国家形成の動き	○第一次世界大戦の結果は、アジア各地の独立運動や民族形成にどのような影響を与えたのかについて理解する。	○第一次世界大戦の結果は、アジア各地の独立運動や民族形成にどのような影響を与えたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○第一次世界大戦の展開と諸地域の変容についての自らの学習を振り返り、学びを深める。

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
1 月	第18章 国際協調体制の動揺と第二次世界大戦		○世界恐慌は、経済や政治をどのように変化させたのか、また、そのなかで台頭したファシズム国家によってひきおこされた第二次世界大戦の推移は、戦後の国際秩序の再編にどのような影響を与えたのかについて理解する。	
		1 世界恐慌と政治・経済の変容	○世界恐慌は、諸地域の経済体制、そして政治体制にどのような影響を与えたのかについて理解する。	○世界恐慌は、諸地域の経済体制、そして政治体制にどのような影響を与えたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		2 国際協調体制の動揺	○世界恐慌が与えた政治、経済の変化は国際協調体制にどのような打撃を与えたのかについて理解する。	○世界恐慌が与えた政治、経済の変化は国際協調体制にどのような打撃を与えたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○国際協調体制の動揺についての自らの学習を振り返り、学びを深める。
		3 第二次世界大戦の開戦と展開	○ヨーロッパではじまった戦争が、どのようにアジア・太平洋での戦争と連動し、「第二次世界大戦」となったのかについて理解する。	○ヨーロッパではじまった戦争が、どのようにアジア・太平洋での戦争と連動し、「第二次世界大戦」となったのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		■資料で深める歴史の世界 イギリスとフランスはなぜ宥和政策をとったのだろうか	○二つの風刺画を読み取り、イギリスとフランスの外交政策とその影響を理解する。	○諸資料を多面的・多角的に考察し、設定された課題を追究する。

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		4 戦後秩序構想と冷戦の形成	○大戦後半に国際秩序の再建はどのように構想され、それがどのように戦後米ソの対立を軸とする冷戦へと展開していったのかについて理解する。	○大戦後半に国際秩序の再建はどのように構想され、それがどのように戦後米ソの対立を軸とする冷戦へと展開していったのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○第二次世界大戦と戦後秩序構想についての自らの学習を振り返り、学びを深める。
		■資料で深める歴史の世界 ドイツの人々はナチスをどのようにとらえたのだろうか	○さまざまな立場から書かれた文字資料を読み取り、ドイツの人々がナチスをどのようにとらえたのかを理解する。	○諸資料を多面的・多角的に考察し、設定された課題を追究する。
1月	第19章 第二次世界大戦と戦後の東アジア		○第二次世界大戦中のアジアの戦後構想と実際のアジアの戦後は、どのような点が連続し、あるいは異なっていたのかについて理解する。	
		1 アジア・太平洋戦争と日本の敗戦	○第二次世界大戦終結への過程で、連合国はどのような戦後構想をいだき、それをどのように実現しようとしたのかについて理解する。	○第二次世界大戦終結への過程で、連合国はどのような戦後構想をいだき、それをどのように実現しようとしたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		2 帝国の解体と分断国家の形成	○日本の敗戦後、「帝国」はいかに解体され、日本の植民地や占領地域はどのような状況に置かれたのかについて理解する。	○日本の敗戦後、「帝国」はいかに解体され、日本の植民地や占領地域はどのような状況に置かれたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		3 アジア諸国の独立と脱植民地化	○第二次世界大戦終結後、植民地支配はどのように再開され、また独立した国はどのような課題に直面したのかについて理解する。	○第二次世界大戦終結後、植民地支配はどのように再開され、また独立した国はどのような課題に直面したのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		4 朝鮮戦争と東アジアの「冷戦」	○朝鮮戦争は東アジアにおける冷戦の形成とどのようにかわり、どのような特徴を残したのかについて理解する。	○朝鮮戦争は東アジアにおける冷戦の形成とどのようにかわり、どのような特徴を残したのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○第二次世界大戦と戦後の東アジアについての自らの学習を振り返り、学びを深める。
2月	第4編 グローバル化と地球的課題		○国際機構の形成と平和への模索、経済のグローバル化と格差の是正、科学技術の高度化と知識基盤社会などに関する諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動を通して、地球世界の課題を読み解く観点について理解する。	○国際機構の形成と平和への模索、経済のグローバル化と格差の是正、科学技術の高度化と知識基盤社会などに関する諸資料を活用し、問いを設定し、情報を読み取ったりまとめたりする。
2月	第20章 冷戦の世界化と国際制度		○冷戦のもとで、世界の平和はどのように模索されたのか、また、冷戦は世界に広がるなかで、それぞれの地域でどのような意味をもったのかについて理解する。	
		1 冷戦と政治・経済秩序	○冷戦下の世界では、政治、経済、安全保障の秩序はどのように構想されたのか、また、どのような均衡がみられたのかについて理解する。	○冷戦下の世界では、政治、経済、安全保障の秩序はどのように構想されたのか、また、どのような均衡がみられたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		2 アジア・アフリカ諸国の独立と第三勢力	○独立国となったアジア・アフリカ諸国はどのような課題に直面し、また、これらの国家の出現は国際社会にどのような影響を与えたのかについて理解する。	○独立国となったアジア・アフリカ諸国はどのような課題に直面し、また、これらの国家の出現は国際社会にどのような影響を与えたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		3 平和共存と社会主義圏の多極化	○冷戦下、東西のバランスはどのように推移し、また、多極化はどのように進展したのかについて理解する。	○冷戦下、東西のバランスはどのように推移し、また、多極化はどのように進展したのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○冷戦の世界化と国際制度についての自らの学習を振り返り、学びを深める。
2月	第21章 冷戦の変容・終結と経済のグローバル化		○冷戦の変容にともない、アメリカ合衆国の経済覇権はどのように動揺したのか、また、その後生じた経済のグローバル化は何を契機におこり、世界経済をどのようにかえていったのかについて理解する。	
		1 アメリカ合衆国の覇権の動揺と冷戦の変容	○1970年代にアメリカの覇権に動揺が生じた原因は何だろうか、また、それは米ソ関係や世界にどのような影響を与えたのかについて理解する。	○1970年代にアメリカの覇権に動揺が生じた原因は何か、また、それは米ソ関係や世界にどのような影響を与えたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		2 冷戦の変容と世界の諸地域	○アジア、アフリカ、ラテンアメリカの各国や社会が、1970年代の冷戦の変容に対してどのような選択をして対応したのかについて理解する。	○アジア、アフリカ、ラテンアメリカの各国や社会が、1970年代の冷戦の変容に対してどのような選択をして対応したのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		3 冷戦の終結とその後の世界	○冷戦は米ソ間やヨーロッパではどのように終結したのだろうか、また、ほかの各地域での冷戦は終結したのかについて理解する。	○冷戦は米ソ間やヨーロッパではどのように終結したのだろうか、また、ほかの各地域での冷戦は終結したのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		4 アメリカ合衆国の復調とグローバル化	○冷戦終結後，世界秩序はどのような方向に向かったのかについて理解する。	○冷戦終結後，世界秩序はどのような方向に向かったのかについて，多面的・多角的に考察し，表現する。 ○冷戦の変容・終結と経済のグローバル化についての自らの学習を振り返り，学びを深める。
3月	第22章 21世紀の地球的課題と人類社会		○21世紀に入り，地球上ではどのような問題が生じ，人類社会はどのような課題に直面し，それを克服しようとしているのかについて，これまでの歴史をふまえ，その課題に取り組む当事者として考える。	
		1 グローバル化にともなう世界の変容	○グローバル化にともなって生じた課題にはどのようなものがあり，そうした課題はなぜ生みだされたのかについて理解する。	○グローバル化にともなって生じた課題にはどのようなものがあり，そうした課題はなぜ生みだされたのかについて，多面的・多角的に考察し，表現する。
		2 地球的諸課題	○なぜグローバル化の進展にともなって解決がいつそう困難になった地球的諸課題があるのかについて理解する。	○なぜグローバル化の進展にともなって解決がいつそう困難になった地球的諸課題があるのかについて，多面的・多角的に考察し，表現する。
		3 新たな秩序変容	○グローバル化の進展によって生じた秩序の変容にはどのようなものがあるのかについて理解する。	○グローバル化の進展によって生じた秩序の変容にはどのようなものがあるのかについて，多面的・多角的に考察し，表現する。 ○21世紀の地球的課題と人類社会についての自らの学習を振り返り，学びを深める。

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
3月	21世紀の地球的課題と世界史		○世界史探究の学習を基に、持続可能な社会の実現を視野に入れ、主題を設定し、諸資料を活用し探究する活動を通して、地球世界の課題を理解する。	○地球世界の課題の形成に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、地球世界の課題の形成に関わる世界の歴史について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。

4 評価の方法

(1) 評価の結果を活かす

学習評価の目的は、生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすること。また、科目の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に活かすようにすることである。そのため、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うと同時に、評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価することで示し、授業の改善と評価の改善を両輪として行っていくことが必要である。学習評価の充実に当たっては、いわゆる評価のための評価に終わることのないよう指導と評価の一体化を図り、学習の成果だけでなく、学習の過程を一層重視し、生徒が自分自身の目標や課題をもって学習をすすめていけるように評価を行うことが大切である。

(2) 評価の観点

知識・技能	○世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解している。 ○諸資料から世界の歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている。
思考・判断・表現	○世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりすることができる。 ○考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。
主体的に学習に取り組む態度	○世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 ○国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとしている。

(3) 評価の時期と方法

ア 「知識・技能」について

評価の方法としては、ペーパーテストにおいて、事実的な知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮するなどの工夫改善を図るとともに、例えば、生徒が文章による説明をしたり、諸資料から情報をまとめる技能を用いたりする場面を設けるなど、多様な方法を適切に取り入れる。

イ 「思考・判断・表現」について

評価の方法としては、ペーパーテストのみならず、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、表現等の多様な活動を取り入れたり、それらを集めたポートフォリオを活用したりするなど評価方法を工夫する。教科書の各章、各単元冒頭の「問い」や、「深める」、また、「資料で深める歴史の世界」で設定されている課題などを有効に活用し、生徒の思考力・判断力・表現力を適切に評価する。

ウ 「主体的に学習に取り組む態度」について

主体的に学習に取り組む態度の評価に際しては、単に継続的な行動や積極的な発言を行うなど、性格や行動面の傾向を評価するというのではなく、知識及び技能を習得したり、思考力・判断力・表現力等を身につけたりするために、自らの学習状況を把握し、学習のすすめ方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているどうかという意志的な側面を評価することが重要である。

エ 評価の時期

年間4～5回の定期考査において、知識の確認だけでなく、三つの観点にもとづいた評価ができるようにする。また、学期末や学年末などの事後での評価に終始することなく、学期の途中などでも各単元など「内容のまとまりごと」に、思考力・判断力・表現力を確認するレポートやワークシートを作成させるなど、適切な学習評価を行うことで、生徒の学習改善につなげることが大切である。

(4) 評定について

各学校において、観点別学習状況の評価と評定の関係について十分留意した上で、観点別学習状況の評価の観点ごとの総括及び評定への考え方や方法について、教師間で共通理解をはかり、総合的に判断する。